

山形新聞社の許可を得て掲載



障害者施設の利用者らによる商品を
買い求める生徒たち
|| 新庄市・新庄北高

新庄北高で「オレンジ市場」

障害者福祉に理解深める

新庄

新庄市内の障害者施設の利用者らが調理・製作した商品などを販売する「オレンジ市場」が4日、同市の新庄北高で開かれた。同校の生徒たちが商品の購入などを通し、障害者福祉への理解を深めた。

オレンジ市場は、市社会福祉協議会（沼沢稔会長）が年5回ほど開いている。障害がある人と高校生との交流の場をつくろうと、初めて学校を会場にした。

唐揚げやガパオライスをはじめとする弁当、チョコケーキやクッキーといった菓子、アクリルたわしやストラップなどの手作り雑貨を扱う5事業所が出店した。休み時間に多くの生徒が集まり、買い物と併せて利用者らとの会話を楽しんでいた。

共に1年の小條沙綾さん(16)と柿崎美紅さん(16)は「気になっていた事業所が学校内に出店してうれしかった」「パッケージがかわいくてたくさん購入した」と話した。

(八木沢駿)

「キジフル」に
A-編集動画

